

2006年9月プレスリリース

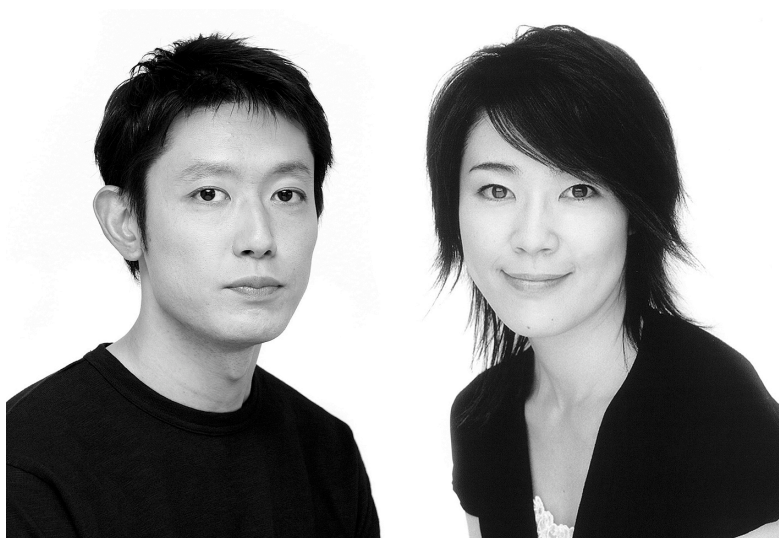
山口情報芸術センター(YCAM)presents

樋口一葉、恋して借りて書いた日々ー。

寺島しのぶ、筒井道隆 出演

演劇公演

「書く女」



11月22日(水)、23日(木・祝)

山口情報芸術センター



平成18年度文化庁芸術拠点形成事業 主催：財団

法人山口市文化振興財団 企画制作：山口情報芸術センター

山口情報芸術センターでは、11月22日(水)、23日(木・祝)の2日間に渡り、日本初の女性職業作家、樋口一葉の半生を描く演劇公演「書く女」を行います。

これは、2003年、山口情報芸術センターの開館時にも上演した「萩家の三姉妹」で話題を呼んだ二兎社 永井 愛による新作演劇公演です。

わずか24年の生涯で「たけくらべ」「にごり絵」などの名作を残し、日本女性では初の職業作家として名を馳せた樋口一葉をモチーフに、“女性の生き方”を追求します。

■寺島しのぶ、筒井道隆が明治を生きる文人を熱演！

演劇公演「書く女」では、主人公“樋口一葉”を寺島しのぶが、そして、その一葉が身を焦がすような恋心を抱く“師範・半井桃水”を筒井道隆が演じます。

寺島しのぶは、現在放送中のNHK連続テレビ小説「純情きらり」で、ヒロイン有森桜子(宮崎あおい)の長姉 有森笛子役を好演中。また、2004年には「赤目四十八瀧心中未遂」(2003年制作/監督 荒戸源次郎)で日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞したことも記憶に新しい、実力派女優です。

また、共演の筒井道隆は、テレビドラマ「あすなろ白書」(1993年 フジテレビ)や大河ドラマ「新撰組！」(2005年 NHK)などのテレビ番組のほか、映画や舞台でも活躍し、根強い人気を博す俳優です。

本作では、テレビや映画でも人気のこの2人のほか、舞台での経験豊富な俳優が勢揃いし、樋口一葉の視点から映し出される明治を生きる人々の姿を描きます。

■明治時代、仕事に、恋に生きた希有な女性、樋口一葉。

五千元札の顔として今やすっかりお馴染みの樋口一葉。東京の外に出ることもなく、半径数キロ圏内で生涯を過ごしました一葉ですが、江戸から明治への転換期に居合わせたその瞳は、想像以上に多くのものをとらえていました。

“女が出世するには、よいところへ嫁に行くか、金持ちの妾になるしかない”と言われた当時、樋口一葉は、職業作家となり、原稿料をもらって生活するなど、前代未聞の生き方をしました。

文学雑誌「文学界」の仲間や小説の師匠・半井桃水などの文人、そして、歌塾「萩の舎」で知り合う上流階級の令嬢、また遊女たちと、多くの人々との交流を通して視野を広げます。

しかし、“女に学問はいらない”“女だけれども、戸主として家を守れ”等々、女であるがために、学校で勉強を続けることも、恋慕う男性と結ばれることも、思いとどまらざるを得なかった一葉は、そのエネルギーを創作活動へと転換し、「書く女」への道を邁進していくのです。

そのような樋口一葉が、「文学界」デビュー後に過ごした豊かな時間を、この作品では再現します。“女であること”の重みに耐えながら、才能を磨いて自己実現を果たしていく彼女の姿は、現代の女性たちとも共通するのです。

本作品は、作・演出の永井 愛が常にテーマとしているうちのひとつである“女性の生き方”を追求。「一葉がいかに濃密に生きたか。いかに真剣に人間と向き合ったかを、現代を生きる人々に観てもらいたい」と永井自身は話しています。

どうぞ、この機会に、貴紙／誌にて、本公演をご紹介しますよう、ご検討お願いいたします。

二兎社について

1981年、大石 静と永井 愛の二人が設立し、それぞれのオリジナル作品を交互に上演する形でスタート。『カズオ』などの「早替わり二人芝居」で人気を博しましたが、大石の退団した1991年以降は、永井の作・演出作品をプロデュースする演劇ユニットとして活動を続けています。

二兎社の新機軸となった「戦後生活史劇三部作」は、敗戦直後や高度成長期、学園紛争末期などの転換期に、時代に翻弄されそうになりながら、自らもしたたかに変化を遂げて生きていく庶民の姿を描き、「日本人」を舞台上で再発見したと高く評価されました。それに続く新作『兄帰る』(1999)では一転して、最先端のライフスタイルを持つ今どきの若夫婦を取り上げ、彼らの見かけと内面のギャップを浮き彫りにして観客を沸かせました。これ以後もチェーホフを大胆にアレンジした『萩家の三姉妹』(2000)、四国の演劇鑑賞団体と共同制作し、地方発信で日本の「現在」をあぶり出した『日暮町風土記』(2001)、文豪夏目漱石の作品を現代に甦らせ、独白を多用して「自己」と「他者」の危うい関係を表現した『新・明暗』(2002)と、観客自身を「当事者」にするような芝居を提供しています。

永井 愛について

劇作家・演出家。二兎社主宰。桐朋学園大学短期大学部演劇専攻科卒。

「言葉」や「習慣」、「ジェンダー」「家族」「町」など、身近や意識下に潜む問題をすくい上げ、観客自身に「考える」材料を提供する新しいタイプのウェルメイドプレイを開拓。現実の生活に直結したライブ感覚あふれる喜劇を目指しています。また、「女性へのこだわり」をキーワードに、日本の近・現代史の中の女性像を演劇的に検証することをテーマとした劇作を続けています。

日本の演劇界を代表する劇作家の一人として海外でも注目を集め、新進劇作家の登竜門として名高い英国ブッシュシアターより、日本人として初めて新作執筆を委嘱されています。近い将来、永井の新作が、世界に先駆けてブッシュシアターで初演される予定です。

永井 愛 最近の注目作

「ら抜ききの殺意」(1997年)(テアトル・エコー)

1997年第1回鶴屋南北戯曲賞

ら抜き言葉などの話し言葉に焦点を当て、「言葉」と「生き方」の関連を考える問題喜劇。

「見よ、飛行機の高く飛べるを」(1997年)(青年座)

1997年第52回文化庁芸術祭大賞

良妻賢母教育に反発してストライキを行う女子師範学校生の青春群像劇。

※上記2作により1997年芸術選奨文部大臣新人賞(永井 愛)受賞。

「兄帰る(1999年)(二兎社 世田谷パブリックシアター提携)

1999年第44回岸田國土戯曲賞

“中村家の物事の決め方”を通して日本人のアイデンティティーを探る。

「萩家の三姉妹」(2000～03年)(二兎社 世田谷パブリックシアター提携)

2000年 第52回読売文学賞(シナリオ戯曲賞)(永井 愛)

2000年 第27回紀伊國屋演劇賞団体賞(二兎社)

2000年 第8回読売演劇大賞 優秀演出家賞(永井 愛)・優秀作品賞

地方都市の三姉妹を軸に女と男の現実を描くカゲキなフェミニズム喜劇。

「こんにちは、母さん」(2001・04年)(新国立劇場)

2001年第9回読売演劇大賞 最優秀作品賞

ある母と息子の関係を通して、知っているはずの人間との「初めての出会い」を描く。

「日暮町風土記」(2001年)(二兎社 四国市民劇場共同企画)

2001年第1回バッカーズアワード演劇激励賞

四国の小さな町にある旧家の解体を巡り、心の拠り所としての“文化”の喪失に眼を向ける。

※上記2作により2001年第1回朝日舞台芸術賞 秋元松代賞(永井 愛)受賞。

「新・明暗」(2002・04年)(二兎社 世田谷パブリックシアター提携)

漱石未完の「明暗」を現代に甦らせ、“自己”と“他者”の心理をミステリー仕立てに描く。

「パートタイマー・秋子」(2003年/青年座)

人は危機的状況でも良心に恥じない行動がとれるか?

スーパーを舞台に問いかける辛口喜劇。

「ゴロウリョフ家の人々」(2003年/新国立劇場)

ロシアの作家シCHEDリンの小説をもとに、欲深な地主一家崩壊の様子を綴った異色の愛憎劇。

「片づきたい女たち」(2004・05年/グループ・ばる)

人生の分岐点を迎えた50代の女3人が抱える「片づけられない」問題を90分のリアルタイムで描く。

演劇公演「書く女」

日 時：2006年11月22日(水) 開演 19:00 23日(木・祝) 14:00 開演 ※30分前開場

＊ 公演終了後、演出家、出演者によるアフタートークを開催

＊ 山口市立中央図書館にて、「永井 愛の本棚」として関連書籍を展示

会 場：山口情報芸術センター スタジオ A

〒753-0075 山口県山口市中園町 7-7 TEL.083-901-2222

作・演出：永井 愛

出 演：寺島しのぶ、筒井道隆

八木昌子、小山萌子、石村実伽、粟田 麗、江口敦子、小澤英恵、向井孝成

中上雅巳、杉山英之、細貝弘二

料 金：全席指定

A 席：一般 4,000 円 any 会員／特別割引 3,000 円

B 席：1,500 円 (学生対象 学生証をご提示ください)

チケット取扱：山口市文化振興財団チケットインフォメーション：TEL.083-920-6111

(受付時間 10:00～19:00 火曜休館)

ローソンチケット：TEL.0570-084-006 (Lコード 61853)

チケット情報：any 会員先行予約 9月9日(土)～

※先行初日は、お電話のみの受付となります。

プレイガイド発売 9月17日(日)～

お問い合わせ：山口情報芸術センター 企画担当：岸、四元(よつもと) 広報担当：小滝

〒753-0075 山口県山口市中園町 7-7

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 E-mail：information@ycam.jp

<http://www.ycam.jp/> <http://mobile.ycam.jp/>(携帯用)

* 写真のお問い合わせは上記までお願いいたします。

■特別割引について

・特別割引は、青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障害者及び同行の介護者1名が対象。

・山口情報芸術センター、山口市民会館、山口南総合センターのみの販売となります。

■託児サービス

・対象：0才(6ヶ月)以上 託児時間:開演の30分前から終演後30分後まで

・料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

・申込方法：9月30日(土)までにチケットインフォメーション(TEL：083-920-6111)までお申し込みください。
未就学児の入場はご遠慮ください。

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

■JR新山口駅から

・JR山口線湯田温泉駅下車、徒歩20分/タクシー5分

・JR山口線山口駅下車、徒歩20分/バス10分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5分

・防長バス25分、中園町下車

■自動車利用

・山陽自動車道で防府東ICから30分/九州・中国自動車道で小郡ICから15分